



鯖江に弁護士さんがやって来る！

4/3 市内に 30 年ぶりに 弁護士事務所誕生！

京都で 66 年の歴史を持つ谷口総合法律事務所
本町 1 丁目に鯖江支所を開設

「弁護士ゼロ地域」解消へ

4月3日、本町1丁目に弁護士事務所が開設されます。これは、京都市にある谷口総合法律事務所が支所を開設するもので、市内に弁護士事務所ができるのはおよそ30年ぶりの出来事です。

「でも、どうして京都の弁護士さんが鯖江に支所を開設…」少し不思議な感じがしませんか。

きっかけは、鯖江に訪れた京大生の声

同事務所の3代目に当たる谷口直大さんが、鯖江の存在を知ったのは平成24年頃。京都大学の法律相談部OBとして後輩の指導にあたっていた際に、鯖江市地域活性化プランコンテスト（第4回と第5回）に参加した増田拓也さん（当時 同大法学部4回生）から鯖江の魅力を聞いたのがきっかけでした。

その後、平成25年6月に谷口さんは初めて来鯖。多くの人と話をする中で、「鯖江市民の温かさや優しさを感じ、自身も鯖江を好きになってしまった」と谷口さんは話します。同時に、弁護士を求めるニーズも肌で感じ、昨年9月から2カ月に一度、無料法律相談会をアイアイ鯖江で開催してきました。このたび支所の開設に当たって、谷口さんは「鯖江市民の身近な相談役になるとともに、鯖江の発展を法務面からサポートしていきたい」と抱負を語ってくれました。

【問合先】谷口総合法律事務所 鯖江支所 本町1丁目1-9 煙安ビル2階 51-7676



広報さばえ4月号を持参された人は、6月末まで無料で相談を受け付けます！

代表弁護士の谷口直大さん（写真左）と支所長弁護士として鯖江に常駐する佐藤孝一さん

ふるさと散歩道

城下町鯖江の変容

— 通史編 近代④ —

明治維新後、廃藩置県と藩家臣団の解散によって経済基盤を失った士族の困窮は全国的な問題でした。政府や府県は士族救済のために農工商への就業奨励策（士族授産）を打ち出しますが、ほとんどが失敗に終わります。

困窮士族の離散は鯖江も例外ではなく、旧鯖江城下の士族が家屋敷を手放したことで土地の桑園・茶畑化に拍車がかかり、武家地戸口は大正期に至るまで減少を続けました。また、一五〇年余りの間、藩政の中心であった鯖江藩陣屋が取り壊されたことで、鯖江城下町としての都市機能は徐々に失われ、町は姿を変えていったのです。

町名と区域の変更で新たな町は形作られ、明治二〇年以降になると武家地は細分化されて、町家の流入が進みましました。

明治五年（一八七二）、旧鯖江城下町であった鯖江町は北陸道を境に東鯖

江村と西鯖江村に分断帰属することが決定します。しかし、鯖江町の住民は都市の実態を無視しているとして激しく反発、その後約一〇年間に渡って鯖江町の分離を求める運動が続いていきました。

（文化課 藤田 彩）



明治中期の鯖江町
（出典「福井県写真帳」）

← 恵美写真館
↓ 土屋病院



第245回